

小 学 校

平成 29 年度

# 教育研究員研究報告書

国 語

東京都教育委員会

## 目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究仮説	3
IV	研究構想図	4
V	研究の方法と内容	
1	基礎研究	4
2	調査研究	4
3	検証授業	6
	低学年分科会（第1学年）の検証授業	7
	中学年分科会（第4学年）の検証授業	13
	高学年分科会（第5学年）の検証授業	18
VI	研究の成果と課題	24

## 研究主題

# 身に付けた読む能力を自覚する指導法の工夫 ～国語科において育成を目指す資質・能力を明確にした 「見通し」及び「振り返り」の充実を図ることを通して～

## I 研究主題設定の理由

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領改善及び必要な方策等について（答申）」（文部科学省 平成 28 年 12 月 21 日）では、小学校段階における国語教育の課題として、目的や意図に応じて情報を整理して文章にすること、筆者の意図を想定しながら文章全体の構成や表現の工夫を捉えることなどが述べられている。これは、国語科「C読むこと」に関連する課題である。

また、「児童・生徒の学力向上を図るための調査」（東京都教育委員会）の読み解く力の調査の結果では、「意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力」に関する説明的な文章を読むことの設問の正答率が、平成 25 年度から年々低下している。特に、平成 28 年度は、この設問の正答率が 33.1%であり、過去 4 年間で最も低い数値であった。この設問は、「要約する」、「比較・関連付けて読む」、「考えを形成する」などの複数の資質・能力を総合的に生かしながら解決する問題となっていることから、東京都の児童には、このような力に課題が見られることが分かった。

そこで、本研究では、教員及び児童の意識調査を実施し、教員は説明的な文章で何を指導し、児童は何を学んでいるかなどの実態を明らかにすることとした。また、調査結果を小学校学習指導要領解説国語編(文部科学省 平成 29 年 6 月)に示された学習過程に沿って分類したところ、説明的な文章の学習を通して学んだことに関して偏りが見られた。「構造と内容の把握」に関する能力が身に付いたことを自覚している児童が 475 名中 116 名であったのに対し、「精査・解釈」に関する能力が身に付いたことを自覚している児童は 44 名であった。また、「考えの形成」及び「共有」に関する能力が身に付いたことを自覚している児童はそれぞれ 2 名であった。このことから、説明的な文章の学習において「構造と内容の把握」に関する内容については学んだことを自覚しやすいが、自分の考えを形成したり、考えを交流させたりする内容については学んだことを自覚しにくいのではないかと考えた。また、単元や一単位時間の学習を通して、学んだことを自覚する指導が十分でないのではないかと推察した。

これらのことから、「C読むこと」の領域において、説明的な文章の学習を通して育成する資質・能力を明確にし、年間を通して資質・能力を身に付けさせるための指導計画を作成するとともに、身に付けた読む能力を自覚する指導法を追究したいと考え、本主題を設定した。

また、児童が主体的に学習に取り組み、身に付けた読む能力を自覚するためには、学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりして、自分の学びや変容を自覚できる場面を設定することが重要であると考えた。そこで、児童が学習の目的を理解し、学習する内容を身に付けたいと思えるように工夫したり、何を学習するための活動かを理解して、その必要性を自覚しながら学習したりすることができるようにした。

さらに、教材ごとに各学年の指導事項や言語活動例を一覧表に整理することで、その単元

において育成を目指す資質・能力を明確にし、それに適した言語活動を設定できるようにした。特に、言語活動を設定する際には、児童にとって学ぶ必然性のある課題を設定し、課題解決することができるようにした。

以上のことから、本研究では、国語科において育成を目指す資質・能力を明確にした「見通し」及び「振り返り」の充実を図ることを副主題に設定するとともに、研究の視点として具体的な方策を講じていくこととした。

## Ⅱ 研究の視点

本研究における「児童が身に付けた読む能力を自覚する」とは、「教材文の内容を理解するだけでなく、学習を通して身に付けた読む能力を自分の言葉で説明できること」と定義した。児童が学習を通して身に付けた読む能力を自分の言葉で説明できるようにするためには、単元全体でどのような学習をするのか見通すことと、一単位時間や単元全体において学習の振り返りを行うことが必要であると考えた。また、児童が言語活動を通して、国語科において育成を目指す資質・能力を身に付けられるように、その単元で育成を目指す資質・能力に適した言語活動かどうかを吟味し、位置付けることが必要であると考えた。

### 1 国語科において育成を目指す資質・能力に適した言語活動の充実

#### (1) 国語科において育成を目指す資質・能力の明確化

読む能力を身に付けさせるために、教員自身が国語科において育成を目指す資質・能力を明確にすることが重要であると考えた。

そのために、教員は各単元の学習過程における指導事項を明確にし、指導を積み重ねることが必要であると考え、「教材ごとの指導事項及び言語活動例一覧」を作成することにした。また、指導する当該学年とその前後の学年の指導事項の関連性を意識することが必要であると考え、「系統表」を作成することとした。

「教材ごとの指導事項及び言語活動例一覧」の作成においては、小学校学習指導要領解説国語編（文部科学省 平成 29 年 6 月）に示された「C読むこと」の指導事項における学習過程（「構造と内容の把握」、「精査・解釈」、「考えの形成」、「共有」）を生かすこととした。各単元で扱う教材の特性を踏まえた上で、それぞれの学習過程における「C読むこと」の指導事項、「知識及び技能」の「言葉の特徴や使い方に関する事項」及び「情報の扱い方に関する事項」とを関連付けて整理することで、国語科において育成すべき資質・能力が明確になるようにした。

次に、「系統表」の作成においては、当該学年とその前後の学年の指導内容を比較し、国語科において育成を目指す資質・能力の関連性が高い単元を整理した。また、各単元において重点的に指導する内容を明らかにし、指導に生かすこととした。こうすることで、指導事項に適した言語活動を設定し、国語科において育成を目指す資質・能力を螺旋的・反復的に積み重ねて育成することができると考えた。

#### (2) 国語科において育成を目指す資質・能力に適した言語活動の充実

小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月）では、国語科の目標において、言語活動を通して資質・能力を育成することが明示されている。

そこで本研究では、作成した「教材ごとの指導事項及び言語活動例一覧」を基に、育成を目指す資質・能力を身に付けることができるような言語活動を設定することとした。育成を目指す資質・能力と言語活動の特徴を関連付けて、適切な言語活動かどうかを吟味するとともに、言語活動を通して資質・能力が身に付く学習過程となるよう、単元の構成や一単位時間の流れを工夫した。また、児童にとって身近な話題や現代社会の問題を取り上げた学習課題を設定することで、児童の学ぶ意欲を高め、課題解決に向けて主体性をもたせられるよう工夫した。

## 2 見通しと振り返りの充実

### (1) 見通しのもたせ方

単元の導入では、児童が「この単元でどのような活動に取り組むのか」、「単元を通して身に付ける資質・能力」の二つを見通すことができるようにした。そのために、単元の導入では、活動のゴールを具体的に提示したり、ゴールに向けてどのような資質・能力を身に付けなければいけないのかを確認したりした。活動のゴールを提示することで、一単位時間の学習の目的を児童がもてるようになって考えた。また、課題解決に向けて学習計画表を児童と共に作成した上で掲示したり、児童一人一人に持たせたりして、常に確認できるようにした。学習計画表には、「毎時間の活動のめあて」、「課題解決に生かせそうな既習事項（めあて達成のためのアイテム）」、「資質・能力に関する振り返りの観点」の三つの項目を入れた。一単位時間の見通しの場面では、この学習計画表を活用した導入を行うことで、児童が活動のめあてや解決のための見通しをもてるようにした。

### (2) 振り返りのさせ方

一単位時間の学習を通して身に付けた資質・能力を児童が自分の言葉で説明できるように、観点を明確にした振り返りに取り組ませた。教員は、「①めあてに即していること」、「②児童が身に付けた資質・能力を適切に評価できるものであること」に留意して、振り返りの観点を設定する必要があると考えた。そして、教員が振り返りの観点を児童に示す際に、具体的な文例を提示することで、どの児童も自分が身に付けた資質・能力について適切に振り返りができるようにした。具体的な文例とは、「(目的)のために文章の(何)に着目して読んだ」、「(何)に着目して読むと、(こういうこと)が分かった」、「今までは(このように)読んでいたが、考えが(このように)変わった」などである。これらを児童の実態や発達の段階、学習内容に応じて提示した。また、資質・能力について適切に振り返ることができている児童の振り返りを紹介しながら価値付けをし、振り返りの仕方について共有できるようにした。こうした振り返りを積み重ねることで、児童は単元を通して自分が身に付けた読む能力を自覚したり、自己の変容・成長に気付いたりすることができると考えた。

## Ⅲ 研究仮説

国語科「C読むこと」において身に付ける資質・能力に適した言語活動の充実を図り、見通しや振り返りの観点を明確にすることで、児童は身に付けた読む能力を自覚することができるであろう。

#### IV 研究構想図



#### V 研究の方法と内容

##### 1 基礎研究

「平成28年度『全国学力・学習状況調査』（文部科学省）や「平成28年度『児童・生徒の学力向上を図るための調査』（東京都教育委員会）、「小学校学習指導要領解説国語編」（文部科学省 平成29年6月）等を参考にして、「C読むこと」と関連付けられる力を分析した。

##### 2 調査研究

「説明的な文章」の指導における「身に付けた読む能力を自覚する指導法」の改善に資すために、実際にその指導がどのように行われているのかを把握するため、以下の調査を実施した。

教員に対して、説明的な文章についての意識調査を行い、その分析から身に付けた読む能力を自覚する指導に関する意識や現状、課題についての実態を把握した。また、児童に対しても、同様の意識調査を行い、その分析から身に付けた読む能力を自覚する学習に関する意識や現状、課題についての実態を把握した。

[平成 29 年度教育研究員（小学校国語）の所属校 15 校の教員 232 人、抽出校 5 校の児童（第 2 学年～第 6 学年）475 人に実施：実施期間 平成 29 年 9 月]

(1) 国語科において育成を目指す資質・能力を明確にした言語活動について

質問 説明文の学習をして、できるようになったことはありますか。（例：「はじめ・中・終わり」に気を付けて文を読めるようになった。）できるようになったことを書いてください。（記述式）	
<b>構造と内容の把握</b>	<b>116人</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明文の構成（はじめ・中・終わり）がよく分かった。38人</li> <li>・段落に気を付けて読むことができるようになった。31人</li> <li>・はじめ・中・終わりに気を付けて書いたり読んだりできるようになった。24人</li> <li>・接続語に着目して読めるようになった。18人</li> </ul>	
<b>精査・解釈</b>	<b>44人</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者が何を伝えたいのか、何を強調したいのかを文末や構成に気を付けて読み取れるようになった。16人</li> </ul>	
<b>考えの形成</b>	<b>2人</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の感想を「はじめ」と「終わり」で、表現を変えることが大事だということについて納得することができた。2人</li> </ul>	
<b>共有</b>	<b>2人</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなと交流することで内容が分かるようになった。1人</li> </ul>	
<b>活用</b>	<b>23人</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を順序よく正しく書けるようになった。2人</li> <li>・説明の仕方をまねすることができる。1人</li> </ul> <p style="text-align: right;">（一部抜粋）</p>	

図1 児童への意識調査

まず、図1のように、児童が「説明文の学習をしてできるようになったこと」に記述した内容について、「小学校学習指導要領解説国語編」（文部科学省 平成 29 年 6 月）の「C読むこと」の指導事項ごとに分析した。最も記述が多かったものは「C読むこと」の「構造と内容の把握」であった。このことから、児童ができるようになったと感じている内容には、偏りがあることが分かった。

次に、図2の質問1のように、「説明的な文章の指導をする際、他学年との指導内容の系統性を意識して指導しているか」の質問に約 60%の教員が「している」、「大体している」と答えており、教員は指導内容の系統性を意識して指導していることが分かった。

しかし、図1にもあったように、児童が「できるようになったこと」と感じている内容には偏りがあることから、教員が系統性を意識して指導している内容自体に偏りがあることも考えられる。

これらのことから、各学年の指導事項を整理し、「教材ごとの指導事項及び言語活動例一覧」を作成するとともに、それを基に関連性が高い単元を整理した「系統表」を作成することが必要であると考えた。そのことによって、学年の縦のつながりが明確になり、国語科において育成を目指す資質・能力を段階的に育成することができるであろうと考えた。

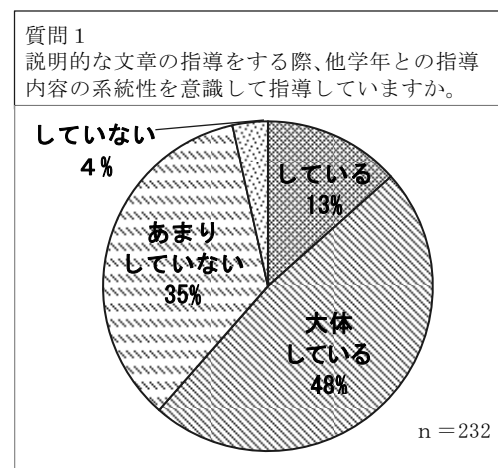


図2 教員への意識調査

(2) 「見通し」と「振り返り」について（教員の意識調査）

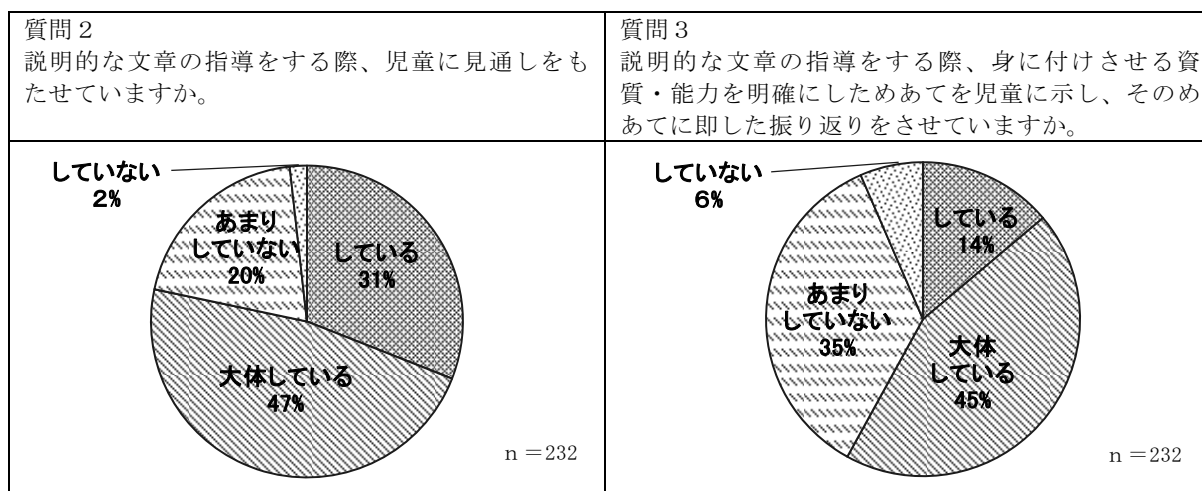


図 3 教員への意識調査

図 4 教員への意識調査

図 3 の質問 2 「説明的な文章の指導をする際、児童に見通しをもたせていますか」についての結果から、「している」、「大体している」を合わせて約 80%の教員が、児童に見通しをもたせて指導していることが分かる。しかしながら、図 4 の質問 3 「めあてに即した振り返りをさせているか」についての結果は、「している」、「大体している」を合わせて約 60%と、見通しに比べて低い値である。

また、前頁「図 1 児童への意識調査」にもあるとおり、児童が「できるようになったこと」と感じている内容には偏りがあることから、児童に学習の見通しをもたせて指導しているものの、振り返りの方法が十分でないため、身に付けた読む能力を「できるようになったこと」として自覚していないのではないかと推察した。

これらのことから、単元で身に付けさせたい資質・能力を児童が見通すことができる学習計画の作成や、学習計画表にめあて達成のためにどのような既習事項を生せるか考えさせる欄（めあて達成のためのアイテム）を設けるなど、教員が発達の段階に応じて、めあてに即し児童が身に付けた資質・能力を評価できる振り返りの観点を設定する必要があると考えた。

### 3 検証授業

教育研究員の月例会や低・中・高学年分科会を通し、研究主題に迫るための授業を検討した。また、検証授業を行い、仮説の検証を行った。

10月20日(金) 第4学年「わたしたちの生活とロボットについて考えよう」

11月7日(火) 第5学年「わたしたちとメディアとの関わりについて考えよう」

11月21日(火) 第1学年「せかいの〇〇のやりかたをくらべて、

じぶんのおすすめをはっぴょうしよう」



## 低学年分科会（第1学年）の検証授業

- 1 単元名 せかいの〇〇のやりかたをくらべて、じぶんのおすすめをはっぴょうしよう  
教材名「歯がぬけたらどうするの」

### 2 単元の目標

○いろいろな国のやり方を説明する文章を読み、似ているところを考え、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うことができる。(現:「C 読むこと」(1)オ、新:「C 読むこと」(1)オ・カ)

### 3 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
<p>①いろいろな国のやり方に興味をもち、すすんで教材文を読んでまとめている。</p> <p>②国同士のやり方や、自分の経験と各国のやり方、自分の考えと友達の考えを比べようとしている。</p>	<p>①事柄の順序等を考えながら、内容の大体を捉えている。</p> <p>②それぞれの国のやり方の中から大事な言葉や文を考えて選び出している。</p> <p>③各国の「すること」と「わけ」の類似点を考えている。</p> <p>④文章の内容と自分の経験を結び付けて、感想をもっている。</p> <p>⑤文章を読んで感じたことや分かったことを友達と伝え合い、自分の考えと友達の考えの類似点や相違点に気付いている。</p>	<p>①文の中における主語と述語の関係に気付いている。</p> <p>②共通している事柄、類似点や相違点、事柄の順序等、情報と情報との関係について理解している。</p>

### 4 教材の特性

本教材は、乳歯から永久歯に歯が生え替わるときに、世界の国々の子供たちがどのようなことをしているのかを紹介した文章である。乳歯が抜け、永久歯に生え替わる時期の児童にとって、自分の経験と結び付けて考えやすい題材である。

また、日本以外に特徴ある五つの国（中国、イギリス、メキシコ、レバノン、バングラデシュ）の例が挙げられている。バングラデシュ以外の四つの国の事例は、一行目に「歯が抜けたらどうするのか」（すること）が書かれており、その後に「どうしてそうするのか」（わけや願い）が書かれている文章構成になっている。バングラデシュの説明は、書かれている事柄の順序が逆になっている点に気付かせ、内容を読み取らせたい。それぞれの国に共通する願い、することとわけの類似点を比べて読むのに適した教材である。

本教材では、書かれている事柄を読み取り、その順序を手掛かりに内容を捉える読み方を指導する。また、一観点で二つの国ずつ比べると比べやすいことを確認し、「すること」と「わけ」の類似点を見付けさせていく。自分がやってみたいやり方を考えることで、自分の経験と結び付けて考えることができると考えた。共有する場を設定し、自分の考えと友達の考えの類似点や相違点にも気付くことができるように指導していく。

5 研究主題に迫るための手だて

(1) 国語科において育成を目指す資質・能力に適した言語活動の充実

ア 国語科において育成すべき資質・能力の明確化

本単元で育成すべき資質・能力を明確にするために、「表1 教材ごとの指導事項及び言語活動例一覧（第1学年）」を作成した。本単元では、「①文章の中の大事な言葉や文を選び出す力（構造と内容の把握）」、「②事柄の類似点を比べて読む力（精査・解釈）」、「③文章の内容と自分の経験を結び付けて自分の考えをまとめ、自分の考えと友達の考えの類似点や相違点に気付く力（考えの形成、共有）」を身に付けさせることを目的とし、指導を進めていくことにした。特に、本単元で育成を目指す資質・能力は、「③文章の内容と自分の経験を結び付けて自分の考えをまとめ、自分の考えと友達の考えの類似点や相違点に気付く力」と位置付け、その前段階として必要な読む能力が「①文章の中の大事な言葉や文を選び出す力」及び「②事柄の類似点を比べて読む力」であると捉えた。

本教材は、六つの国の歯が抜けたときに「すること」と「わけ」が説明されているため、国と国のやり方を比べて読むことができる。また、第1学年の児童に身近な題材であるため、自分の経験と結び付けて考えやすい教材である。このような教材の特性を生かして本単元でねらう資質・能力を育成できると考えた。さらに、第1学年だけでなく、その後の学年における育成すべき資質・能力も明らかにすることで、縦のつながりを意識した指導ができると考え、次頁「表2 系統表」も作成した。

表1 教材ごとの指導事項及び言語活動例一覧（第1学年）

教材	どうやってみをまもるのかな	いろいろなふね	歯がぬけたらどうするの	
育成すべき資質・能力	構造と内容	全文を読み、内容の大体を捉える。	全文を読み、世界の国々では、歯が抜けたときのやり方について書かれている文章であることを捉える。	
	精査・解釈	出てくる動物の種類と、それぞれの動物の説明の範囲を捉える。	一段落が話題提示、十四段落がまとめ、それ以外の段落が四つの事例が書かれているという全体構成を捉える。	一・二段落で日本の例を挙げながら話題提示をし、三段落で読みの視点を示していることを抑える。
		全体の話題提示の部分とそれぞれの説明の部分とを区別する。		四段落以降、五つの国の事例が、どの順番で挙げられているかを捉える。
		それぞれの動物の特徴と身の守り方を読み取る。 情報比較の仕方を理解する。	四種類の船の「役目」、「つくり」、「できること」を正しく読み取る。 言葉主語と述語の関係に気付く。	歯が抜けたときの日本の「すること」と「わけ」を読み取る。
	考えの形成		どの船の説明も「役目」、「つくり」、「できること」の順番で書かれていることを理解する。	六つの国の「すること」と「わけ」を読み取り、大事な言葉や文を選び出してまとめる。
			四種類の船について、「客船」、「フェリーボート」、「漁船」、「消防艇」の順番で事例を挙げている理由を話し合う。 情報説明させている事柄の順序や事例の順序を理解する。	それぞれの国のやり方の類似点を考えて発表し合う。 情報類似、相違について理解する。
	共有	動物の身の守り方について分かったことやもっと知りたくなったことをまとめる。	船の「役目」、「つくり」、「できること」について初めて知ったことやよいと思ったことについて自分の考えを書く。	世界の国々の歯が抜けた時のやり方の中で、自分の体験と結び付けてやってみたいやり方を選び、そのわけをまとめる。
言語活動例	動物の身の守り方について考えたことを共有し、一人一人の考えの違いに気付く。	動物の身の守り方について考えたことを共有し、一人一人の考えの違いに気付く。	歯が抜けたときに「やってみたいやり方」とその「わけ」について伝え合い、自分の考えと友達の考えの共通点や相違点に気付く。	
言語活動例	教科書以外の、動物の身の守り方について書かれた本を読み、考えたことを本にする。	教科書以外の乗り物の「役目」、「つくり」、「できること」について書かれた本を読み、考えたことをまとめ、乗り物図鑑にする。	教科書以外の世界の風習について書かれた本を読み、「やってみたいやり方」と「わけ」についてまとめ、発表する。	

表2 系統表（第1学年から第3学年） ※ □は、指導事項の重点

	構造と内容の把握	精査・解釈, 考えの形成, 共有	
第一学年	<p>どうやってみをまもるのかな</p> <p>事柄の順序に気を付けて、内容を正しく読む。（捉える）</p>	<p>いろいろなふね</p> <p>書かれていることを事柄ごとに正しく読み取り、他の本を読んで調べたことをまとめる。（情報活用）</p>	<p>歯がぬけたらどうするの</p> <p>文章を読んで、似ているところや違うところを考え、自分のやってみたいやり方を伝え合う。（比べて考える）</p>
第二学年	<p>たんぽぽ</p> <p>順序に気を付けて、文章の内容を読み取る。（捉える）</p>	<p>ふるしきは、どんなぬの</p> <p>カードと本の文章を読み比べ、それぞれの説明の仕方の違いに気付く。（比べて考える）</p>	<p>ビーバーの大工事</p> <p>大事な言葉や文に気を付けながら文章を読み、他の本等を読んで調べたことをまとめる。（情報活用）</p>
第三学年	<p>自然のかくし絵</p> <p>段落ごとの内容を考えてながら読む。（捉える）</p> <p>要点</p>	<p>「ほけんだより」を読みくらべよう</p> <p>二つの「ほけんだより」を読み比べ、それぞれの事柄の取り上げ方や説明の工夫を読み取る。</p>	<p>もうどう犬の訓練</p> <p>大事な言葉や文を見付けながら文章を読んで、書かれていることを要約する。</p>

- ※ -----> 事柄の順序 → 要点 → 要約を捉える力
- ※ —————> 比べて読む力（→第5学年の多面的に読む力につながっていく）
- ※ -----> 情報を活用する力

イ 国語科において育成を目指す資質・能力に適した言語活動の設定

本単元では、「世界の〇〇のやり方を比べて、自分のお勧めを发表しよう」という単元のゴールを設定した。本教材は歯が抜けた経験のある児童にとって、自然と自分とは違う他のやり方を試してみたいという思いになる教材である。やってみたいやり方をお勧めとして発表するという目的をもつことで、各国のやり方を比べて読む必然性が生まれる。各国の「すること」や「わけ」の類似点に焦点化することで、より文や言葉に着目して考えることができる考えた。国と国のやり方の類似点や、ある国のやり方と自分のやり方との類似点や相違点を伝え合う言語活動を行うことで、自分の考えと友達の考えの類似点や相違点に気付くことができ、本単元で育成すべき資質・能力を身に付けさせることができると考えた。

(2) 「見通し」及び「振り返り」の充実

ア 見通しのもたせ方

本単元では、単元のゴールを、世界の人々の風習が分かる絵本のブックトークや単元名、題名、児童が教材文を読んだ感想等から具体的に考えさせ、「世界の〇〇のやり方を比べて、自分のお勧めを发表しよう」と設定した。単元のゴールは、児童が常に確認できるように教室に掲示する。また、単元のゴールを達成するために必要な学習を、既習の経験等から児童に考えさせ、学習計画表を児童と共に作成する。毎時間の導入の際には、学習計画表に明記した一単位時間のめあてを確認する。さらに、前時の児童の振り返りを紹介しながら振り

返りの観点に正対した書き方を価値付けし、考え方や表記の仕方を共有できるようにする。

本単元では、世界の様々なやり方を比べる学習活動を行うため、世界の暮らしや風習に関連する本を教室に置き、学習に対する興味・関心を高め、学習意欲が継続するよう環境を整える。

### イ 振り返りのさせ方

振り返りをする際には、学習計画表を活用する。学習計画表には、毎時間の「めあて」、「アイテム」、「分かったことやできるようになったこと」の三項目を縦に配列し、全単元分を一枚にまとめた。「アイテム」とは、一単位時間ごとの課題解決に生かせそうな既習事項を示している。児童は第1学年であるため、アイテムの中には本単元で学習した内容も取り入れている。「分かったことやできるようになったこと」の振り返りは、発達の段階を考慮し、文章の一部を空欄にして提示し、自分の言葉で記述させるようにする。

## 6 学習指導計画（10時間扱い）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
一次	1	せかいのふうしゅうについてのブックトークをきいて、かんそうをかこう		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○世界の人々の風習にふれる絵本数冊のブックトークを聞き、感想を書く。</li> <li>○自分たちの身近で願いを込めて行っている日本の風習について話し合う。</li> <li>○本時の振り返りをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界には様々な風習の違いがあることに気付かせる。</li> <li>・第1学年の児童がこの時期に実際に体験している歯が抜けたときのことを想起させる。</li> <li>・振り返りの観点を示すことで、一単位時間の身に付いた力を自己評価できるようにする。</li> </ul>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <b>振り返りの観点</b>                      ・ブックトークを聞いて、どのような感想をもちましたか。                 </div> <p>[関]自分の体験と比べて、感想を書こうとしている。 (発言・ワークシート)</p>
	2	がくしゅうのめあてをかんがえ、がくしゅうけいかくをたてよう		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○「歯がぬけたらどうするの」を読み、感想や不思議だと思ったことを書いて、発表する。</li> <li>○単元を通して解決したい課題を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の感想や教材名から、いろいろな国のやり方を比べながら読み、自分のやってみたいやり方を選んでおすすめるという学習課題をもたせる。</li> </ul>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <b>振り返りの観点</b>                      ・この学習でどのようなことをしていくのですか。                 </div>
		せかいの○○のやりかたをくらべて、じぶんのおすすめをはっぴょうしよう		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習計画を立てる。</li> <li>○本時の振り返りをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習課題を解決するために必要な学習を考えさせる。</li> <li>・ゴールの活動に向け、並行読書をしながら、どの習慣についておすすめを発表するのか考えさせておく。</li> </ul>	<p>[関]文章の内容と歯が抜けたときの経験を結び付けて、学習課題をすすんで考えている。 (発言・学習計画表)</p>

二次	3	「はがぬけたらどうするの」にせつめいされていることと、じゅんじょをよみとろう		
		<p>○教材を読み、内容の大体を捉える。</p> <p>○書かれている事柄と順序を確認する。</p> <p>○本時の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・六つの国について、歯が抜けたときに「すること」と「わけ」が説明されていることを捉えさせる。</li> <li>・「すること」、「わけ」の順序で書かれていることを確認する。</li> <li>・バングラデシュの部分のみ、書かれている事柄の順序が逆になっていることを取り上げ、全体で確認する。</li> </ul>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><b>振り返りの観点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「歯がぬけたらどうするの」には、どのようなこと説明されていましたか。</li> </ul> </div> <p>[読]六つの国の歯が抜けたときのやり方が「すること」、「わけ」の順序で書かれていることを読み取っている。(発言・ワークシート)</p>
		4	六つの国の はがぬけたときに「すること」や「わけ」をよみとり、まとめよう	
構造と内容の把握	5	<p>○日本と中国の歯が抜けたときに「すること」と「わけ」の内容と書き方を全体で確認する。</p> <p>○イギリス、メキシコ、レバノン、バングラデシュの四つの国の「すること」と「わけ」を読み取り、ワークシートにまとめる。</p> <p>○友達と交流し、書いた内容を確認し合う。</p> <p>○四つの国の「すること」と「わけ」を全体で確認する。</p> <p>○本時の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「国名」、「すること」、「わけ」の三つの観点を一覧表に整理し、視覚的に理解できるようにする。</li> <li>・必要に応じてペアで「アドバタイタイム」を行うようにする。</li> </ul>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><b>振り返りの観点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・六つの国のどのようなことをまとめましたか。</li> </ul> </div> <p>[読]大事な言葉や文を見付け、各国の「すること」や「わけ」を読み取っている。(発言・ワークシート)</p>
	6	それぞれのくにの はがぬけたときに「すること」や「わけ」を くらべよう		
精査・解釈	7	<p>○日本と中国の歯が抜けたときに「すること」と「わけ」について、似ているところを考え、ワークシートに書く。</p> <p>○日本と中国の似ているところを全体で確認する。</p> <p>○それぞれの国の歯が抜けたときに「すること」と「わけ」の似ているところを考え、ワークシートに書く。</p> <p>○ペアで、書いた内容を伝え合い、自分の考えと友達の考えの似ているところや違うところを見付ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比べる視点や比べ方のこつ、書き方を確認し、ワークシートにまとめるようにする。</li> <li>・それぞれの国の似ているところを多く見付けられた児童には「おかわりカード」を用意しておく。</li> <li>・ペア交流では、自分と友達の考えが似ているところを見付けたらピンクのシール、違うところを見付けたら黄色のシールを貼るようにする。</li> </ul>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><b>振り返りの観点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの国の歯が抜けたときに「すること」や「わけ」をどのようにして比べましたか。</li> </ul> </div> <p>[読]各国の「すること」と「わけ」の類似点を見付け、まとめている。(発言・ワークシート)</p>
	考えの形成			

<p>考えの形成</p>	<p>○それぞれの国の似ているところを全体で発表し、確認する。</p> <p>○本時の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体発表では、「友達のいいところ」として、自分の考えと似ていたところや、自分が気付かなかったところを発表させる。</li> <li>歯が抜けたときにすることには、願いが込められていることも読み取るようにする。</li> </ul>	
<p>共有</p>	<p>8</p> <p>はがぬけたときに、じぶんがやってみたいやりかたをえらび、わけをつたえよう</p> <p>○歯が抜けたときに自分がやってみたい方法を選び、その国とやり方、選んだわけをワークシートにまとめる。</p> <p>○自分が選んだ国とやり方、選んだわけを友達と伝え合う。</p> <p>○自分の考えと友達の考えの似ているところや違うところを考える。</p> <p>○本時の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の経験と結び付けて、やってみたいやり方を選んだわけを考えることを確認する。</li> <li>交流の仕方を確認する。</li> <li>比べる視点を確認する。</li> </ul>	<p><b>振り返りの観点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えと友達の考えの似ているところや違うところは、どのようにして比べましたか。</li> </ul> <p>[読] 文章の内容と自分の経験を結び付け、自分がやってみたい方法を考えている。(発言・ワークシート)</p>
<p>三次</p>	<p>9</p> <p>ねがい・あいさつ・だっこのえ本の中からやってみたいやりかたをえらび、まとめよう</p> <p>○自分が興味をもった世界の風習について、やってみたいやり方をワークシートにまとめる。</p> <p>○本時の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「世界のあいさつ」、「世界のだっことおんぶの絵本」、「願いごとのえほん」の中から、自分がやってみたい方法を選び、「選んだ本の題名」、「国」、「やり方」、「選んだわけ」の四つの観点でワークシートにまとめることを確認する。</li> <li>自分の経験と結び付けて考えさせる。</li> </ul>	<p><b>振り返りの観点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートには、どのようなことをまとめましたか。</li> </ul> <p>[読] 文章を読み、自分の経験と結び付けて、自分がやってみたい方法をまとめている。(ワークシート)</p>
<p>共有</p>	<p>10</p> <p>じぶんがえらんだ やってみたいやりかたを はっぴょうしよう</p> <p>○自分がやってみたいやり方を発表する。</p> <p>○自分の考えと友達の考えの似ているところや違うところを発表する。</p> <p>○本時の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えと友達の考えの似ているところや違うところを考えながら、発表を聞くようにさせる。</li> <li>グループを変えて交流させ、様々な考えに触れられるようにする。</li> <li>振り返りの観点を示し、一単位時間及び単元の学習を通して、学んだことやどのような力が身に付いたかを振り返らせ、自分の学びを自覚できるようにする。</li> </ul>	<p><b>振り返りの観点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えと友達の考えの似ているところや違うところは、どのようにして比べましたか。</li> </ul> <p>[読] 文章の内容を自分の経験と結び付けながら読み、自分ならどうしたいかを考えて発表したり、友達の思いや考えを自分と比べたりしている。(発言・ワークシート)</p>

## 中学年分科会（第4学年）の検証授業

- 1 単元名 わたしたちの生活とロボットについて考えよう  
 教材名 『ゆめのロボット』を作る 小林 宏

### 2 単元の目標

- 段落相互の関係に着目しながら、筆者の考えとそれを支える理由や事例との関係等について、叙述を基に捉えることができる。(現：「C 読むこと」(1)イ、新：「C 読むこと」(1)ア)  
 ○筆者の考えや願いを踏まえた上で、自分の「ゆめロボット」を考え、理由や根拠とともにまとめることができる。(現：「C 読むこと」(1)エ・オ、新「C 読むこと」(1)ウ・オ)

### 3 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・技能・理解
①人の役に立つロボットに興味をもち、二つの文章を関係付けながら読んで、自分も「ゆめロボット」について考えようとしている。	①段落相互の関係に着目しながら、筆者の考えとそれを支える理由や事例との関係等について、叙述を基に捉えている。 ②筆者の考えや願いを踏まえた上で、自分の「ゆめロボット」を考え、理由や根拠とともにまとめている。	①考えとそれを支える理由や事例等、情報と情報との関係について理解している。 ②具体例や理由を示す接続語の役割を理解し、使っている。

### 4 教材の特性

本単元は、二つの教材で構成されている。

一つは、「わたしの『ゆめのロボット』」というインタビュー形式の文章である。ロボット研究者である筆者へのインタビューを通し、筆者のロボット研究に対する思いが述べられている。インタビューは一問一答形式になっており、質問者の「問い」に対する筆者の「答え」が明確に書かれていることから、筆者のロボットに対する見方や考え方を端的に捉えやすい教材であると言える。ただし、筆者の研究対象であるロボットに関する事例については触れられていないため、具体例のない抽象度の高い文章となっている。そのため、事例が示されている説明的な文章と関係付けながら、二つの文章を相互に補完して読み進める必要がある。

もう一つは、『『着るロボット』を作る』という、尾括型の説明的な文章である。本文は、序論-本論-結論の三段構造で書かれており、ロボットに関する事例が本論で、筆者の考えが結論で述べられている。筆者は、「マッスルスーツ」と「アクティブ歩行器」という二つの事例を紹介することで、根拠を明確にしながら自分の考えを述べている。こうした筆者の考えと事例との関係を捉えさせるためには、文章の三段構造を捉えさせるとともに、結論に書かれた筆者の考えが、二つの事例のどの叙述を根拠としているかを明らかにしながら読み進めていくことが望ましい。また二つの事例を比較し、結論で述べられた筆者の思いと関連性の高い事例を精査する活動を通して、事例の順序性から筆者の意図を捉える読み方を指導する。

5 研究主題に迫るための手だて

(1) 国語科において育成を目指す資質・能力に適した言語活動の充実

ア 国語科において育成を目指す資質・能力の明確化

本単元で育成すべき資質・能力を明確にするために、「表3 教材ごとの指導事項及び言語活動例一覧」を作成した。

本単元では、「段落相互の関係に着目しながら、筆者の考えとそれを支える理由や事例等の関係について、叙述を基に捉える力（構造と内容の把握）」と、「文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつ力（考えの形成）」を身に付けさせることを目的とし、指導を進めていくこととした。

また、中学年における指導事項である「構造と内容の把握（考えとそれを支える理由や事例との関係等を読み取ること）」、「精査・解釈（中心となる語や文を見付けること）」、「考えの形成（感想や考えをもつこと）」、「共有（一人一人の感じ方等に違いがあることに気付くこと）」が、年間を通してだけではなく、前後の学年の系統の中で、積み重ねられていくことを意識して指導に当たることが重要であると考え、次頁「表4 系統表」も作成した。

表3 教材ごとの指導事項及び言語活動例一覧（第4学年）

教材	ヤドカリとイソギンチャク	広告と説明書を読みくらべよう	くらしの中の和と洋	「ゆめ」のロボットを作る	
育成を 目指す 資質・ 能力	構造と 内容	文章を「はじめ」、「中」、「終わり」に分け、それぞれの役割を捉える。 問いと答えの関係捉え、「中」を三つの意味段落に分ける。 言葉転換を示す接続語の役割を理解する。 筆者の主張と、その根拠となる事例との関係を捉える。 情報主張と事例との関係を理解する。	広告と説明書を読み、それぞれの文章に書かれている事柄について比較する。 情報比較の仕方を理解する。 広告と説明書を読み、それぞれの文章に書かれている事柄の順序について比較する。 情報比較の仕方を理解する。	文章を「序論」、「本論」、「結論」に分け、それぞれの役割を捉える。 「序論」の内容と関連付けて、「本論」を二つの事例に分ける。 言葉対比や並列を示す接続語の役割を理解する。 筆者の考えと「本論」にある事例との関係を捉える。 情報「結論」の内容と「本論」の事例との関係を理解する。	
	精査・ 解釈	中心となる言葉に着目し、意味段落の要点をまとめる。 「終わり」から、筆者の主張を読み取る。	広告と説明書を読み、言葉の使い方や説明の仕方について比較する。 情報比較の仕方を理解する。 広告と説明書を読み、写真や絵、色の使い方について比較する。 情報比較の仕方を理解する。 広告と説明書を読み、書かれている事柄のレイアウトについて比較する。 情報比較の仕方を理解する。	「機能」、「活用例」、「筆者の考え」という観点で、事例の要点をまとめる。 インタビュー記事から、筆者の願いや考えを抜き出す。	
	考えの 形成	ヤドカリとイソギンチャクの共生関係について考えたことをまとめる。	広告と説明書の違いについて、目的と表現の工夫を関係付け、自分の考えをまとめる。	自分の経験と関係付けて、和室と洋室のよさを四百字程度でまとめる。 言葉比較や引用を示す接続語の役割を理解し、使う。	筆者の考えを踏まえた上で自分の「ゆめロボット」を考え、理由や根拠とともにまとめる。 言葉具体例や理由を示す接続語の役割を理解し、使う。
	共有	ヤドカリとイソギンチャクの共生関係について考えたことを共有し、一人一人の考えや着目した事例の違いに気付く。	広告と説明書の違いについて考えたことを共有し、一人一人の考え方や着目した表現の工夫の違いがあることに気付く。	和室と洋室の良さについてまとめた文章を共有し、一人一人の引用の仕方や要約の仕方、考え方に違いがあることに気付く。	筆者の願いに対する考え方や、「ゆめロボット」の内容について共有し、友達の方の考え方の良さや違いに気付く。
言語 活動 例	共生関係にある生き物について書かれた本を読み、考えたことを文章にまとめる。	身の回りにあるポスターやラベルなどから、目的に合わせた表現の工夫を捉え、まとめる。	暮らしの中にある「和」と「洋」の文化を調べ、比較する観点を明確にして四百字程度でまとめる。	科学読み物を読み、筆者の考えとそれに対して自分が考えたことを四百字程度でまとめる。	



表4 系統表（第3学年から第5学年） ※ □は、指導事項の重点

	構造と内容の把握	精査・解釈、考えの形成、共有		
第三学年	<b>自然のかくし絵</b> 段落ごとの内容を考えながら読む。 (捉える) <b>要点</b>	<b>「ほけんだより」を読み比べよう</b> 二つの「ほけんだより」を <b>読み比べ</b> 、それぞれの事柄の <b>取り上げ方や説明の工夫</b> を読み取る。	<b>もうどう犬の訓練</b> 大事な言葉や文を見付けながら文章を読んで、書かれていることを <b>要約</b> する。	<b>人をつつむ形—世界の家めぐり</b> 文書や絵から <b>読み取ったこと</b> を整理し、いろいろな家の作りについて考える。
第四学年	<b>ヤドカリとイソギンチャク</b> 段落と段落の結び付きを考えながら、 <b>文章のまとまり</b> を捉える。	<b>広告と説明書を読み比べよう</b> 広告と説明書の文章を <b>読み比べ</b> 、それぞれの目的に合わせた表現の違いを読み取る。	<b>くらしの中の和と洋</b> 何をどのように比べているかを読み取り、調べたことを目的に応じて引用したり <b>要約</b> したりする。	<b>「ゆめロボット」を作る</b> 二つの文章を関係付けて読み、 <b>自分たちの生活とロボットとの関わり</b> について考える。 <b>(要約する)</b> より深く捉え、多面的に読む。アイデアについて共有し友達の考えのよさに気付く。
第五学年	<b>動物の体と気候</b> 文章の構成を考えながら読み、 <b>要旨</b> を捉える。	<b>新聞記事を読み比べよう</b> 記事と写真との関係に注意しながら <b>新聞記事を読み比べ</b> 、書き手の意図を読み取る。	<b>和の文化について調べよう</b> いろいろな本や資料を、 <b>目的を意識して読む</b> 。	<b>テレビとの付き合い方</b> 例と意見との関係に注意して筆者の考えを読み取り、 <b>自分と身の回りのメディアとの関わり</b> について考える。 <b>文章に対して多面的に</b> 考えながら読む。

※ -----> **要点**→**要約**→**要旨** を捉える力

※ —————> **比べて読む**→**多面的に読む**力

## イ 国語科において育成を目指す資質・能力に適した言語活動の充実

本単元で児童に身に付けさせたい国語科としての資質・能力は、「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の感想や考えをもつこと（考えの形成）」である。

その資質・能力に適した言語活動として、筆者の考え（願い）を踏まえた「自分のゆめロボット」を考えるという活動（単元のゴール）を設定した。これは、記録や報告等の文章を読み、文章の一部を引用して分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする言語活動である。自分の考えを支える理由や事例である本文の一部を引用し、相手に分かるように自分の考えを説明したり意見を述べたりする活動を通して、資質・能力を身に付けさせていきたいと考えた。

### (2) 見通し及び振り返りの充実

児童がこれまで身に付けてきた読む能力を生かしながら、本単元では更に、「二つの文章を関連付けて読む」、「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の感想や考えをもつ」という力を身に付けさせたい。そのためには、文章の内容や構造を正しく理解し、考えとそれを支える理由や事例、情報と情報とがどのように結び付いているのかを理解することが重要である。このように、教員が「児童に身に付けさせたい力」を明確に把握し、示していくという手だてを考えた。

## ア 見通しのもたせ方

学習全体の見通しをもたせるために、学習計画（何を学ぶのか）を掲示し、単元のゴールを明確に示した。また、児童には「身に付ける力（この学習で何ができるようになることが目標か）の項目欄、振り返りの記述欄」を一覧にした学習計画表を持たせ、毎時間、確認できるようにした。

## イ 振り返りのさせ方

一単位時間の学習で、児童がその日の学びについて振り返りをする。「身に付ける力」を観点に示し、そのことについて書かせる。その際、例えば「〇〇をするために、〇〇に着目して読んだ。〇〇を読むと、〇〇が分かった。」など、学習したことの「何」が「どのような力」につながったのかということを見出し、児童が自ら記述できるように、具体的な文章を示すなど工夫する。さらに、その振り返りに対して、目標に沿って読み取れているかどうかを教員がコメントし、次時に紹介して共有するなど価値付けをすることで、児童自身が「身に付ける力」を明確に自覚できるようにした。

## 6 学習指導計画（10 時間扱い）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
事前学習		<ul style="list-style-type: none"> <li>○「自分たちの生活とロボット」というテーマで、調べ学習を行う。</li> <li>○資料や文献、インタビュー、検索等で情報を集める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな情報を集め、興味・関心をもって調べさせる。</li> </ul>	[関]「ロボット」というテーマに、興味・関心をもっている。 （ノート記述）
一次	1	調べてきたロボットの情報を、伝え合い、学習計画を立てよう		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分が知っていることや、調べてきたことを発表して、ロボットについての情報を共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料や情報から読み取ったことに基づいて感想や考えをもたせる。</li> </ul>	[関]事前調査から知りえた情報を共有し、考えを伝え合おうとしている。 （発言・記述内容）
二次	2	「インタビュー記事」を読み、筆者のロボットに対する考えを見付けよう		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元の学習課題を確かめ、学習の見通しを立て、身に付けたい力を自覚させる。学習計画を立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『ゆめロボット』とはどのようなロボットなのか」という問いに対するこの時点での自分の考えをもたせる。</li> </ul>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <b>振り返りの観点</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのように、学習の見通しをもちましたか。</li> </ul> </div> [関]学習課題が分かり、学習の見通しをもっている。 （学習シート）
二次	2	「インタビュー記事」を読み、筆者のロボットに対する考えを見付けよう		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○インタビュー記事「わたしのゆめロボット」を読み、筆者のロボットに対する考えを読み取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読させる。</li> </ul>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <b>振り返りの観点</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・何に着目すると、「筆者の考え」を読み取ることができますか。</li> </ul> </div>

構造と内容と把握	3	『着るロボット』を作る」を読み、「序論 - 本論 - 結論」を分けよう	○「着るロボットを作る」という説明文を読み、文章全体の構成を把握する。	・「問い」と「答え」に着目し、筆者の考えを読み取らせる。	<b>振り返りの観点</b> ・「序論 - 本論 - 結論」を見分けるコツは何ですか。
	4	筆者の願いが「実現している」と分かる文を見付けよう	○筆者の考えとそれを支える理由や事例を関係付けて読み、筆者の考えや願いが具体的に表れているところを読み取る。	・段落相互の関係（考えとその理由や、考えをより具体的にするための事例等）に着目しながら、筆者の考えを、叙述を基に捉えさせる。	<b>振り返りの観点</b> ・何に着目すると、筆者の願いを見付けることができましたか。 [読]筆者の考えとそれを支える理由や事例との関係等について、叙述を基に読み取ることができる。（発言・ノート記述）
	5	二つの文章を関係付けながら読み、共通点を見付けよう	○二つの文章を関係付けながら読み、共通点を明らかにして整理する。	・比較や分類の仕方を理解し、使えるようにする。	<b>振り返りの観点</b> ・二つの文章の共通点を見付けるために、何に着目しましたか。
精査・解釈	6	筆者の考える「ゆめロボット」とはどのようなロボットか、言葉を選んで要約文を書こう	○筆者の考える「ゆめロボット」とはどのようなロボットなのか、筆者の考えや込められた願いを踏まえて、要約する。	・目的を意識して、文章の構成や内容を基に、二つの資料を関連付け、必要な情報を見付けて要約させる。	<b>振り返りの観点</b> ・要約は、どこに着目するとまとめられますか。
	7・8	筆者の主張をふまえた「ゆめロボット」を考えて、文章に書こう	○教材文を読んだことを基に、筆者の考えを踏まえて自分でも「ゆめロボット」について考え、文章にまとめる。	・教材文を読んで理解したことに基づき、自分の考えや感想をもたせる。	<b>振り返りの観点</b> ・筆者の主張を踏まえた自己の考えは、どのようにするともつことができましたか。 [言]自分の考える「ゆめロボット」について書くために、筆者の主張を踏まえながら、根拠を明確にし、考えを書いている。（ノート記述）
考えの形成	9	自分の考えた「ゆめロボット」を発表しよう	○自分の考えた「ゆめロボット」を発表し合い、感想を交流（共有）する。	・自分たちが考えた「ゆめロボット」についての文を読み合い、感じたことや考えたことを共有すること。友達の考え方のよさに気付かせる。	<b>振り返りの観点</b> ・友達の発表のどこに注目して聞きましたか。 [読]友達の発表が、筆者の考えを踏まえ、根拠を明確にした考えかどうかを聞き取っている。（学習シート記述）
	共有	10	○関連する科学読み物を読み、筆者の考えとそれに対して自分が考えたことを四百字程度でまとめる。		[言]「人の役に立つ」という観点で、筆者の主張を踏まえながら、根拠を明確にして考えを書いている。（ノート記述）
三次					

## 高学年分科会（第5学年）の検証授業

### 1 単元名 わたしたちとメディアとの関わりについて考えよう

教材名「テレビとの付き合い方」 佐藤 二雄

### 2 単元の目標

- 目的に応じて、文章と図表等を結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。（現：「C 読むこと」(1)ウ、新：「C 読むこと」(1)ウ）
- 文章を読んで、自分とメディアとの関わりについて考えたことを発表し合い、自分の考えを広げることができる。（現：「C 読むこと」(1)オ、新：「C 読むこと」(1)カ）

### 3 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言葉についての 知識・理解・技能
①メディアとの関わり方に興味をもち、それに対する自分の考えをもとうとしている。	①目的に応じて、文章と図表等を結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。 ②文章を読んでメディアとの関わりについて考えたことを発表し合い、自分の考えを広げている。	①文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、語や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。 ②情報と情報との関係付けの仕方、図等による語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。

### 4 教材の特性

本教材は、メディアの中でも特に身近なテレビから発信される情報について、事例を挙げながら考えを述べた説明的な文章である。巧みな事例で筆者の考えに共感させ、児童にメディアについて興味をもたせることができる。また、筆者の意見に説得力をもたせるため、図やグラフを用いていることや、文末表現に工夫していることを捉えさせることができる。そして、「[資料] 写真の伝わり方」についてふれることで、本文で述べている筆者の意見について再度考えたり、児童が自分の経験を思い起こしたりしながら主体的に読み進めることができると考えられる。

本文で、事例と意見の関係を押さえながら読み、筆者の考えを正確に捉えることによって、自分の考えをもたせ、互いの考えを広げさせることに適した教材であると考えた。

5 研究主題に迫るための手だて

(1) 国語科において育成を目指す資質・能力に適した言語活動の充実

ア 国語科において育成を目指す資質・能力の明確化

教材ごとの指導事項とそれに適した言語活動を吟味し、それらを整理して「表5 教材ごとの指導事項及び言語活動例一覧」を作成し、本単元でどのような資質・能力を育成すればよいのかを明確にした。また、本単元で重点的に育成する資質・能力を「目的に応じて文章と図表等を結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりする力」とした。

本教材は、図やグラフを用いて説得力をもたせている文章であり、テーマも児童にとって身近であり目的意識をもって文章を読むことができる。このような教材の特性を生かして本単元でねらう資質・能力を育成できると考えた。

また、第5学年だけでなく、前後の学年における育成すべき資質・能力も明らかにすることで、縦のつながりを意識した指導ができると考え、次頁「表6 系統表」も作成した。

表5 教材ごとの指導事項及び言語活動例一覧（第5学年）

教材	動物の体と気候	新聞記事を読み比べよう	和の文化を受けつぐ一和菓子をさぐる	テレビとの付き合い方
育成すべき資質・能力	文章を「序論」、「本論」、「結論」に分け、それぞれの役割を捉える。 言葉文章の構成や展開を理解する。	文章を読み、新聞の特徴や役割、記事の構成と写真の役割について理解する。	文章を「序論」、「本論」、「結論」に分け、それぞれの役割を捉える。 言葉文章の構成や展開を理解する。	例や図と意見との関係に着目して筆者の考えを読み取る。 情報比較の仕方を理解する。
	文章構成図を作り、文章の内容と構成を整理する。 言葉文章の構成や展開を理解する。	二つの新聞記事を読み比べ、内容に共通点や相違点を整理する。 情報比較の仕方を理解する。	文章構成図を作り、調べる観点や説明の仕方を考える。 言葉文章の構成や展開を理解する。	文章全体の構成の効果を理解する。 情報「グラフと調査結果の関係」と「白い部分と黒い部分の図の関係」を理解する。
	文章の構成を考えながら、要旨を捉える。	二つの新聞を読み比べ、それぞれの書き手の意図を読み取る。 情報比較の仕方を理解する。	結論部分を読み、文章の要旨をまとめる。 言葉語順や文と文との接続の関係を理解する。	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨を捉える。
	筆者の最も伝えたいことがどこに表れているか考える。	見出しやリード文、本文等を比較し、書き手の伝えたいことを読み取る。 情報比較の仕方を理解する。	課題を解決するために、複数の本や文章を比べて読む。 情報情報と情報との関係付けを理解する。	目的に応じて、文章とグラフや図等を結び付けて考える。 情報情報と情報との関係付けを理解する。
	文章構成図を手掛かりにし、筆者の伝えたいことを、適切な分量を考えてまとめる。	写真を読み解き、その効果を考える。 情報情報と情報との関係付けを理解し、活用する。	必要な情報を選んだり、組み合わせたりして、説明する内容を考える。 情報情報と情報との関係付けを理解し、活用する。	筆者の意見と、挙げている例や図との関係を理解する。 情報情報と情報との関係付けを理解し、活用する。
			事例が明確に伝わるように、説明の構成を工夫する。 言葉文章の構成や展開を理解する。	
	まとめた要旨を友達と交流した後、より分かりやすい要旨にまとめ直す。	記事の内容と写真から読み取った書き手の意図を踏まえ、効果的な見出しを考える。	伝えたい内容や目的に合わせて、資料を活用して説明する。	筆者の述べていることについて多面的に考え、メディアとの付き合い方に関する自分の考えを文章にまとめる。
共有	文章構成図を参考にして書きまとめた要旨を共有し、自分の考えを比べ、相違点と共通点を確かめ合う。	記事に付けた見出しを互いに読み合い、もとの見出しと比較させ、よさや工夫を考えて感想を交流する。	説明の仕方や資料の使い方等について考え、助言しながら説明し合う。	テレビとの付き合い方について考えたことを共有し、一人一人の考えや着目した事例の違いに気付く。
言語活動例	文章の要旨や構成図をまとめ、文章に対する自分の感想や紹介の文章等を入れたパンフレットにまとめる。	他教科との連携を図り、あるテーマを基に様々な方法で調べた情報を集め、新聞にまとめる。	伝えたい内容や目的、意図に応じて様々な資料を活用して説明する文章を四百字程度でまとめる。	他のメディアについて事実と感想、意見などを区別して、自分の考えが伝わるように書く。

表6 系統表（第4学年から第6学年） ※ □は、指導事項の重点

	構造と内容の把握	精査・解釈、考えの形成、共有		
第四学年	<b>ヤドカリとイソギンチャク</b> 段落と段落の結び付きを考えながら、 <b>文章のまとまり</b> を捉える。	<b>広告と説明書を読み比べよう</b> 広告と説明書の文章を <b>読み比べ</b> 、それぞれの目的に合わせた表現の違いを読み取る。	<b>くらしの中の和と洋</b> 何をどのように比べているかを読み取り、調べたことを目的に応じて引用したり <b>要約</b> したりする。	<b>「ゆめロボット」を作る</b> 二つの文章を関係付けて読み、自分たちの生活とロボットとの関わりについて考える。→ <b>要約</b> （する）より深く捉え、 <b>多面的に読む</b> 。アイディアについて共有し友達考えのよさに気付く。
第五学年	<b>動物の体と気候</b> 文章の構成を考えながら読み、 <b>要旨</b> を捉える。	<b>新聞記事を読み比べよう</b> 記事と写真との関係に注意しながら <b>新聞記事</b> を読み比べ、書き手の意図を読み取る。	<b>和の文化について調べよう</b> いろいろな本や資料を、 <b>目的を意識して読む</b> 。	<b>テレビとの付き合い方</b> 例と意見との関係に注意して筆者の考えを読み取り、 <b>自分と身の回りのメディアとの関わりについて考える</b> 。→ <b>文章に対して多面的に</b> 考えながら読む。
第六学年	<b>イースター島にはなぜ森林がないのか</b> 事実と意見との関係に注意しながら文章を読み、結論部分の接続語と文末の表現に着目し、最後の一文が筆者の最も述べたいことであることを読み取り、 <b>要旨</b> を捉える。	<b>新聞の投書を読み比べよう</b> <b>四つの投書を読み比べ</b> 、文章に表れている書き手の工夫について読み取り、読み手を説得するために理由付けの仕方や事実と根拠の挙げ方等の工夫を捉える。	<b>町の幸福論</b> 「人と人とのつながり」を作るための取組についてプレゼンテーションを行うという <b>目的をもって、教材や資料等から複数の情報を集め、自分の経験と関連付けて読む</b> 。	<b>プロフェッショナルたち</b> 文章を読んで、そこに書かれた人物の生き方から、自分の将来の夢や生き方を考え、共有することで <b>一人一人の見方に違いがあること</b> や <b>考え方のよさを知り、自分の考えを広げる</b> 。

※ -----> **要点**→**要約**→**要旨** を捉える力

※ -----> **比べて読む**→**多面的に読む**力

イ 国語科において育成を目指す資質・能力に適した言語活動の充実

この単元のゴールとして「自分と身の回りのメディアとのよりよい関わり方について意見文にしてクラスのみならずと交流すること」を設定した。この意見文には、「筆者の意見に対する自分の考えを述べる部分」と、「自分が選んだメディアとの関わり方についての自分の考えを述べる部分」がある。筆者の意見に対する自分の考えを述べるためには、図やグラフと文章を結び付けながら正しく要旨を捉える必要がある。また、自分が選んだメディアとの関わり方について述べるためには、筆者の考えと自分が選んだメディアに関する資料を関連付けて読むなど、多面的に考える必要がある。意見文にこれらの二つの部分を位置付けることで、本単元でねらう資質・能力を育成できると考えた。

(2) 「見通し」及び「振り返り」の充実

児童が身に付けた読む力を自覚するためには、どのような資質・能力を身に付けたのかについて、児童自身が理解し、自分の言葉で説明できることが必要である。見通しと振り返りを充実させるために、以下のように指導した。

ア 見通しのもたせ方

何を目的に、どのような活動を行い、今までに学習したどのような資質・能力を生かすことができるのかを児童と共有できるように、学習計画を児童と共に立てた。

学習計画を立てるために、まず、明確なゴールイメージをもたせた。本単元のゴールは、

「自分と身の回りのメディアとのよりよい関わり方について意見文にしてクラスの間などと交流すること」とした。そのゴールに向けて、「何をどのような順序で学習するのか」について考えさせた。また「課題解決のために、どのような資質・能力を生かすことができそうなのか」については、毎時間の最後に次時への見通しとして既習事項を想起させた。立てた学習計画は、表にして掲示したり、児童に持たせたりして毎時間確認できるようにした。

#### イ 振り返りのさせ方

振り返りについては、「分かったことや身に付いたこと」を中心に振り返るようにした。

例えば、文章構成を捉える学習活動の時は、どのように文章構成を捉えたのかについて振り返ることにより、対象（文章）が変わっても文章構成を捉えることができるような読むことの観点等を与えた。本単元は第5学年として最後の説明的な文章となる。振り返りについても学習計画表に入れて毎時間記入させることで、単元を終えた時に、自分が説明的な文章を読むためにどのような力を身に付けてきたのかということについて自覚できるようにした。

### 6 学習指導計画（8時間扱い）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準(評価方法)
一 次	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">※事前にメディアについてのアンケートを実施する。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">学習課題をつかみ、学習計画を立てよう</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施したアンケートを活用して、自分とメディアとの関わりについて興味・関心を高める。</li> <li>・教材文を読み取った後に自分の身の回りのメディアについて考えたことを書くという学習課題をつかみ、目的意識をもたせる。</li> <li>・最終活動に向けて、並行読書等をさせ、どのメディアについて書くのか考えさせておく。</li> </ul>	アンケートの内容 ①世の中の出来事や動きを知るうえで役に立つメディアは、どれですか。(例示する) ②メディアに関わる時間全体を百とすると、それぞれのメディアに関わる時間はどのくらいですか。(平日、土曜日、日曜日)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○アンケートの結果を知り、自分とメディアとの関わりについて興味・関心をもつ。</li> <li>○学習課題を知る。</li> </ul>		
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">筆者の考えを読み取り、自分と身の回りのメディアとの関わりについて多面的に考えよう</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者がどんな論の進め方をしていのか、意識して読むようにする。</li> <li>・文章構成やグラフ・図の効果、要旨等の既習を基に学習計画を立てる。</li> <li>・振り返りの視点を示し、本時の学習の成果や考えの変容を自覚できるようにする。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">振り返りの観点</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この単元でどのような学習をするのですか。</li> <li>・どのように学習計画を立てたのですか。</li> </ul> [関]メディアとの関わり方に興味をもち学習課題をつかんでいる。 (観察・発言・学習計画表)
<ul style="list-style-type: none"> <li>○全文を範読する。</li> <li>○学習計画を立てる。</li> <li>○学習を振り返る。</li> </ul>				

二次	構造と内容の把握	2	文章構成を捉えよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>○めあてを確かめ、教材文を読む。</li> <li>○全文を三つのまとまりに分け、文章構成を捉え、筆者の伝えたかったことを考える。</li> <li>○学習を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章構成を考えさせながら読ませる。</li> <li>・内容や指示語に着目して文章構成を捉えさせる。</li> <li>・結論(⑦)から筆者の考えを読み取らせるが、それだけでは十分ではないことに気付かせる。</li> <li>・振り返りの視点を示し、本時の学習の成果や考えの変容を自覚できるようにする。</li> </ul>	<p><b>振り返りの観点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章構成は、どのように捉えましたか。</li> </ul> <p>[言]文章構成を捉えている。 (観察・発言・学習計画表)</p>
		3	グラフや図と筆者の意見のつながりを考えよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>○めあてを確かめ、教材文を読む。</li> <li>○文章構成を基に、グラフや図と筆者の意見のつながりを考える。</li> <li>○黒い部分と白い部分に当てはまる言葉を検討する。</li> <li>○学習を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフや図と筆者の意見のつながりを考えながら読ませる。</li> <li>・グラフと②段落のつながりを押さえる。</li> <li>・図と③～⑥段落のつながりを押さえる。</li> <li>・図の黒い部分と白い部分に当たる言葉を教材文の中で考え、線を引かせる。</li> <li>・④段落は具体で、⑥段落は抽象であることを押さえる。</li> <li>・振り返りの視点を示し、本時の学習の成果や考えの変容を自覚できるようにする。</li> </ul>	<p><b>振り返りの観点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフや図は筆者の意見とどのようにつながっていたでしょうか。</li> </ul> <p>[言]図と文章との関係を明らかにして筆者の考えを読み取っている。 (観察・発言・ノート・学習計画表)</p>
精査・解釈	構造と内容の把握	4	要旨をまとめよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>○めあてを確かめる。</li> <li>○筆者の考えを確認する。</li> <li>○文章の要旨をまとめる。</li> <li>○グループで要旨を交流する。</li> <li>○要旨を全体で確認する。</li> <li>○学習を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の考えの中心を基に、文章構成から要旨を考えさせる。</li> <li>・終わり(⑦)から筆者の考えを読み取らせ、全体を読む必要性に気付かせる。</li> <li>・振り返りの視点を示し、本時の学習の成果や考えの変容を自覚できるようにする。</li> </ul>	<p><b>振り返りの観点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要旨は、どのようにまとめましたか。</li> </ul> <p>[読]筆者の考えの中心を基に、要旨をまとめている。 (観察・ノート・学習計画表)</p>
		5	筆者の意見は写真でも当てはまるのか考えよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>○めあてを確かめる。</li> <li>○「写真の伝わり方」を読んで、自分の考えと根拠を書く。</li> <li>○自分の考えを友達と伝え合う。</li> <li>○全体で確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「テレビとの付き合い方」の要旨と「写真の伝わり方」の要旨を比べたり、黒い部分と白い部分の図を例に説明したりさせる。</li> <li>・筆者の意見が写真でも当てはまるのか、考えと根拠を叙述を基にペアで伝え合う。</li> <li>・「写真の伝わり方」が、筆者の意見につながることを文章と関連付けて確認し、次時以降の学習につなげる。</li> </ul>	<p><b>振り返りの観点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えの根拠をどのように説明することができましたか。</li> </ul> <p>[読]「写真の伝わり方」について、筆者の意見を基にして自分の考えを書いている。 (観察・発言・ワークシート)</p>
精査・解釈	構造と内容の把握	本時				



考えの形成 共有		○学習を振り返る。	・振り返りの視点を示し、本時の学習の成果や考えの変容を自覚できるようにする。		
	6	筆者の意見に対して、多面的に考えよう			
		○めあてを確かめる。  ○筆者の意見に対して、納得できるか話し合う。  ○筆者の意見と例の関係について話し合う。 ○筆者の意見は、他のメディアでも言えるかどうかを考える。 ○学習を振り返る。	・多面的に考えるとは、「筆者の意見に納得できるかどうか、例は分かりやすいか、他のメディアでは当てはまるのか」ということを確認する。 ・筆者の意見に賛成か反対か、どちらかの立場に立たせ、意見を交流させる。 ・筆者の例が適切であるか意見を交流させる。 ・教科書と同じ図に書き込みをさせながら考えさせる。 ・振り返りの視点を示し、本時の学習の成果や考えの変容を自覚できるようにする。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <b>振り返りの観点</b>          ・筆者の意見は、テレビや写真以外のメディアでも当てはまりそうですか。       </div> [読]筆者の意見に対して、多面的に考えている。 (観察・発言・ノート・学習計画表)	
三次 考えの形成	7	身の回りのメディアとの関わりについて意見文にまとめよう			
		○めあてを確かめる。 ○身の回りにあるメディアの特徴について話し合う。 ○自分が取り上げるメディアについて、図が使えるかどうかを考える。 ○取り上げたメディアについて、考えたことをまとめる。 ○学習を振り返る。	・アンケートや学習してきたことを基にして、話し合わせる。  ・ノートに教科書と同じ図を書かせ、書き込みをさせながら考えさせる。 ・文章の構成例を意識させながらまとめさせる。 ・振り返りの視点を示し、本時の学習の成果や考えの変容を自覚できるようにする。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <b>振り返りの観点</b>          ・身の回りのメディアとの付き合い方について考えたことをどのようにまとめましたか。       </div> [読]身の回りのメディアとの関わりについて意見文にまとめている。 (観察・ノート・学習計画表)	
共有	8	意見文を交流し、自分の考えを広げよう			
		○書いた文章を交流して、自分の考えを広げる。  ○いくつかの文章を全体で紹介する。 ○本単元の振り返りをする。	・論の進め方が分かりやすいかどうかを助言し合うようにさせる。 ・自分の考えと友達の考えの共通点、相違点に着目させる。 ・振り返りの視点を示し、一単位時間と単元全体の学びの変容を自覚できるようにする。 ・学びの変容を自覚させるとともにそれを全体で共有する。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <b>振り返りの観点</b>          ・意見文を交流し、自分の考えはどう広がりましたか。          ・この単元でどのような読むことの力が付きましたか。       </div> [読]意見文を交流し、自分の考えを広げている。 (観察・発言・ノート・学習計画表)	

## VI 研究の成果と課題

### 1 検証授業を振り返って

	(1) 国語科において育成を目指す資質・能力に適した言語活動の充実	(2) 「見通し」及び「振り返り」の充実
低学年	○「教材ごとの指導事項及び言語活動例一覧」を活用して単元全体の指導事項を明確にし、自分のやりたいやり方を選んでおすすめるという言語活動を設定したことにより、児童は、目的をもって、各国の様々な風習についての「すること」と「わけ」を読み比べることができた。	○一単位時間の導入段階において振り返りの観点と文型を提示したことで、児童が見通しをもって学習することができた。 ○「課題解決に生かせそうな既習事項」を毎時間確認し、振り返りの観点を児童が身に付けた資質・能力を評価できるものにしたことは、児童自身が身に付けた読む能力を自覚することにつながった。
中学年	○筆者の願いを踏まえて「自分のゆめロボット」を考えるという言語活動を通して、文章の一部を引用して意見を述べる方法を指導したことで、児童は気持ちや心の面でも人を助けるロボットについて考え、理由や根拠を本文から引用してまとめることができた。	○学習計画表に、単元及び一単位時間の学習を通して身に付ける力を具体的に示したことで、児童が見通しをもって学習することができた。 ○一単位時間の学習を通して学んだことを、学習のめあてと関連付けて具体的に記述させたことは、児童が身に付けた読む能力を自覚することにつながった。
高学年	○育成を目指す資質・能力を明確にし、自分たちと関わりの深いメディアについて意見文を書いて交流するという言語活動を設定したことにより、児童は、目的をもって筆者の意見を捉えたり、複数の文章を比較・関連付けて読んだりして、自分の考えを広げることができた。	○学習計画を児童と共に立てたことで、見通しをもって学習させることができた。 ○振り返りの観点や「課題解決に生かせそうな既習事項」を示したことは、児童が身に付けた読む能力を自覚することにつながった。

### 2 全体の成果と課題について

#### (1) 成果

- 教員が育成すべき資質・能力を明確にし、その系統性を重視したことで、児童が各単元で身に付ける読むことの力を意識して学習に取り組むことにつながった。
- 児童にとって身近な話題や現代の社会問題を取り上げた学習課題を設定し、単元で身に付けさせたい資質・能力に適した言語活動を行うことで、身に付けた読むことの力の自覚につながった。
- 学習計画表を提示し、活用したことで、活動の見通しだけでなく、身に付けるべき読むことの力の見通しにもつながった。

#### (2) 課題

- 発達の段階に応じて身に付けた読むことの力を自覚させるための振り返りの観点を示すことが難しかった。めあてや課題解決に生かせそうな既習事項、振り返りの観点の一貫性をもたせるために、さらに、内容や文言の吟味が必要である。
- 一単位時間の振り返りのみでなく、単元全体の振り返りの観点も充実させる必要がある。

## 平成 29 年度 教育研究員名簿

### 小学校・国語

#### 低学年分科会

学 校 名	職 名	氏 名
北 区 立 稲 田 小 学 校	主任教諭	清 水 絵 里
板 橋 区 立 志 村 坂 下 小 学 校	主任教諭	○ 阿 世 知 め ぐ み
江 戸 川 区 立 平 井 小 学 校	主任教諭	☆ 齋 藤 美 津 子
福 生 市 福 生 第 七 小 学 校	主任教諭	大 島 静 恵

#### 中学年分科会

学 校 名	職 名	氏 名
大 田 区 立 小 池 小 学 校	主任教諭	伊 藤 康 朗
中 野 区 立 谷 戸 小 学 校	主任教諭	福 田 薫
杉 並 区 立 高 井 戸 小 学 校	主任教諭	今 泉 真 里 恵
練 馬 区 立 豊 玉 小 学 校	主任教諭	☆ 菊 地 良 太
西 東 京 市 立 谷 戸 小 学 校	主任教諭	◎ 清 水 達 郎

#### 高学年分科会

学 校 名	職 名	氏 名
江 東 区 立 豊 洲 小 学 校	主任教諭	前 河 英 臣
品 川 区 立 後 地 小 学 校	主任教諭	杉 山 慶 太 郎
江 戸 川 区 立 平 井 東 小 学 校	主任教諭	☆ 清 水 茜
調 布 市 立 若 葉 小 学 校	主任教諭	福 里 佳 代
町 田 市 立 鶴 川 第 二 小 学 校	主任教諭	市 川 裕 佳 子
国 立 市 立 国 立 第 一 小 学 校	主幹教諭	清 原 周 栄

◎全体世話人      ○副世話人      ☆分科会世話人

[担当]東京都教職員研修センター研修部教育開発課  
指導主事 酒見 裕子

平成 29 年度

教育研究員研究報告書

小学校・国語

東京都教育委員会印刷物登録

平成 29 年度第 142 号

平成 30 年 3 月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課  
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号  
電話番号 (03) 5320-6849  
印刷会社 康印刷株式会社